

悠久の名詩選

— 中国の名作シリーズ —

公益社団法人 関西吟詩文化協会 創立八十周年記念実行委員会

悠久の名詩選

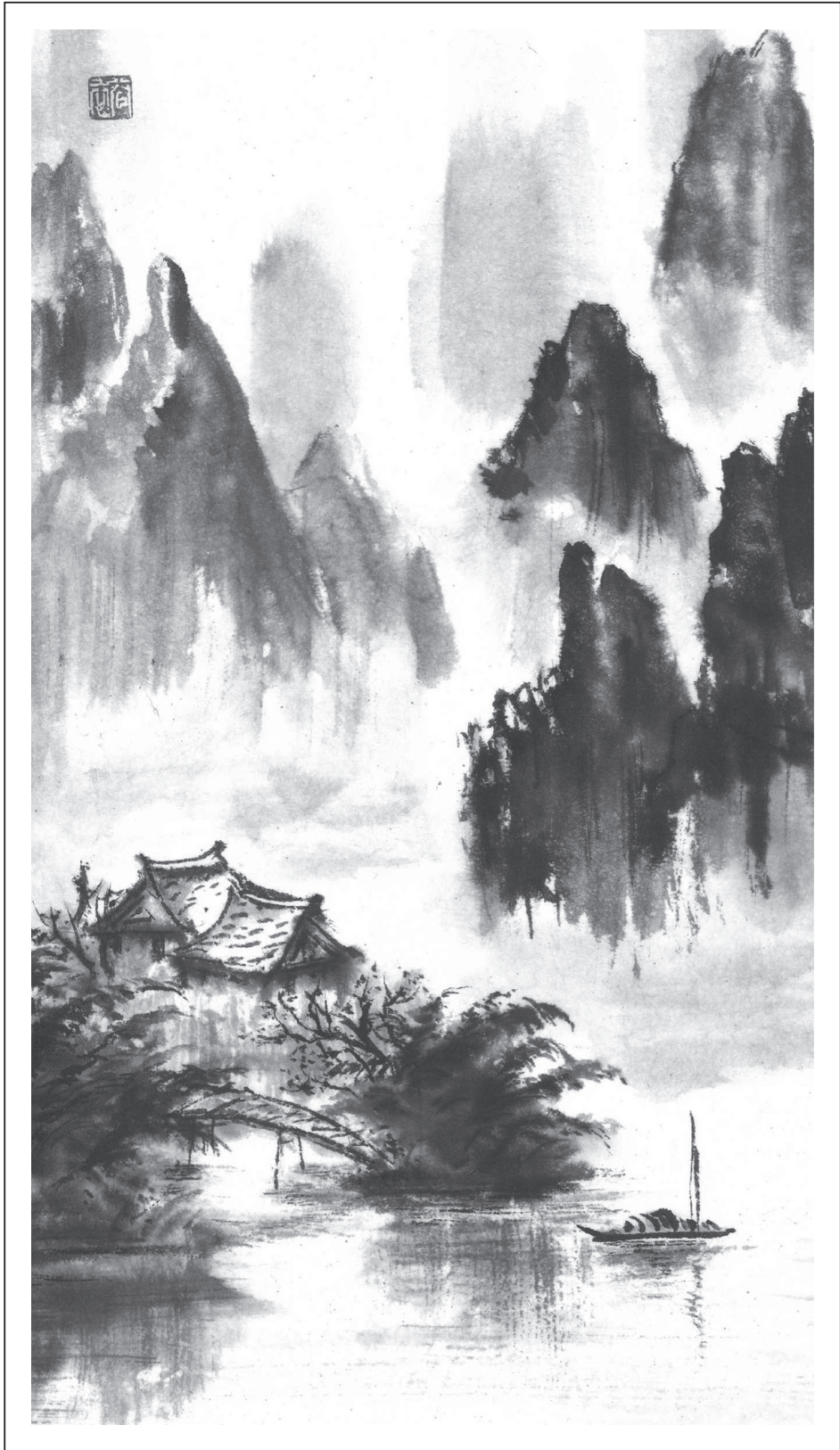
中国の名作シリーズ

中国の名作シリーズ

悠久の名詩選

公益社団法人 関西吟詩文化協会

創立八十周年記念実行委員会



水墨画 1：桂林



水墨画 2：橋



二代会長 宮崎東明先生会訓

巻頭言

之を知るものは之を好むものにしかず、之を好むものは之を楽しむものにしかずとは、孔聖の道を語りし所なり。吟詩も亦然り。ただ其の詩を知り、その詩を吟ずるのみなるは未だし、之を好むにいたりてよし。ただ之を好むも未だ可ならず、其の意を悟り其の義を楽しむにいたりて完きなり。楽しめば則ち生ず。詩中の景、詩中の情、油然として其の心に生じ来りて、己れ遂に詩中の人となる、これを同化という。吟詩の妙味ここにあり、修養の道も亦ここにあり。われ諸君とここに従事せん。

初代会長 藤澤黄坡先生遺訓

ごあいさつ

公益社団法人 関西吟詩文化協会 総本部

会長 山口華雋

巻頭言の一節に「……其の意を悟り其の義を楽しむにいたりて完きなり。楽しめば則生ず、詩中の景、詩中の情、油然として其の心に生じて来りて、己遂に詩中の人となる。これを同化という。吟詩の妙味ここにあり、修養の道も亦ここにあり。」があります。

中国から伝わり日本の文化に大きな影響を与えた漢詩、又、漢字からやがてひらがなが生まれ、日本固有の短歌の世界が開き、やがて俳句・新体詩が生まれてまいりました。私達は、この伝統文化である漢詩・和歌・俳句・新体詩を愛唱することにより、又、作詩を楽しむことにより、人生の修養を図らんとするものであります。

其の意を悟り、その義を楽しむには、教本の紙面での解説では、不十分であることから、詩の背景・作者の心

情などを詳しく解説する詳解書の発行が囑望されておりましたが（星野哲史先生・藤元哲湊先生らによる詳解書あり）総本部では、平成十七年に、より吟詠をたのしんで頂く一助として、機関誌「吟詩日本」に「悠久の名詩」として漢詩・作者をより詳しく紹介することといたし、現在まで連載して参りました。

この度創立八十周年を迎えるに当たり、記念事業の一環として、過去掲載された悠久の名詩シリーズを一冊の書籍にまとめました。日頃の吟詠活動及び、より有意義な詩吟人生をお送り戴く為の資料のひとつとしてご愛読下されば幸甚にぞんじます。

目次

巻頭言・ごあいさつ

中国地図

悠久の名作シリーズ

1	峨眉山月	李白の叫びが聞こえる	李白	10	11	清平調詞三首	念願かなった朝廷への出仕	李白	41
2	白帝城	今も人の心を捉えてはなさない李白の詩	李白	12	12	示姪孫湘	左遷されても気概を持った硬骨漢	韓愈	45
3	登高	憂愁の詩人、悲憤・慷慨を詠う	杜甫	16	13	易水送別	義を負うて死地に向かう親友を思う	駱賓王	47
4	秋興	憂愁の詩人 望郷を詠う	杜甫	19	14	蜀中九日	唐詩の幕あけ	王勃	50
5	送元二	中国第一の送別詩『渭城曲』 古来唱い継がれた『陽関三疊の曲』	王維	22	15	六月二十七日望湖樓醉書	比喩とユーモアの名手	蘇東坡	52
6	九月九日憶山東兄弟	自然派の詩人 望郷を詠う	王維	25	16	赤壁	蘇軾の雅遊に思いをはせる	袁枚	54
7	泊秦淮	滅びし南朝への懐古	杜牧	28	17	涼州詞	兵士の心痛に涙する辺塞詩	王之渙	57
					9	絶句(二)	杜甫の心をとらえた景…とその情	杜甫	34
					8	旅夜書懷	絶望的な自嘲のつぶやき	杜甫	30
					10	草堂題東壁	廬山の風光をこよなく愛した中唐の詩人	白樂天	37

18	遊山西村	陸游	60	28	送張生	歐陽修	93
	山紫水明の地故郷で詠んだ名篇				北宋時代の逸材		
19	蘇臺覽古と越中懷古	李白	62	29	江南春望	杜牧	96
	古の歴史の跡を覽・古を懷う				双曲の屏風画の如し		
20	鹿柴	王維	67	30	咸陽城東樓	許渾	99
	どんな人も自然にあこがれ、いつかは自然の中に帰りたい				唐朝の滅亡を予感し憂慮す		
21	江雪	柳宗元	69	31	山園小梅	林逋	102
	一幅の山水画を思わせる叙景				梅を妻のように愛した詩人		
22	回郷偶書	賀知章	72	32	蜀相	杜甫	106
	李白を長安詩壇に推した人				波瀾万丈の大詩人		
23	黃鶴樓	崔顥	76	33	鍾山卽事	王安石	111
	唐代随一と絶唱された黃鶴樓				唐宋八大家の一人で政治家でもあった		
24	楓橋夜泊	張繼	79	34	獨不見	沈佺期	115
	旅愁をうたった詩で、古来より有名であるが				晩秋 わび住まいの若妻が遠征中の夫を憶う		
	解釈にあたっては諸説がある			35	酌酒輿裴迪	王維	118
25	春暁	孟浩然	82		現代世相を反映する心眼の詩		
	春の季語に			年表			
26	送辛漸	王昌齡	86	参考資料			
	一片の氷心珠玉の一句が心を揺さぶる			発刊にあたって			
27	清明	杜牧	90	編集を終えて			
	晩唐第一の詩人						